

校

医



第533号 令和4年12月1日  
発行所 京都市学校医会  
京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
楠町601-1 こどもみらい館2階  
TEL (075) 256-0351  
FAX (075) 241-3568  
発行人 杉本英造

## 令和4年度 京都市学校保健会 健康教育シンポジウム 開催報告

太秦小学校医 井本雅美

10月18日、京都市総合教育センター 永松記念ホールで、健康教育シンポジウムが「コロナ禍の子どもたちとメンタルヘルス」という主題で開催されました。

講演の講師は国立成育医療センターの田中 恭子氏、当初現地での講演予定でしたが、諸事情でWEBでの講演となりました。コロナ禍の子どものストレス反応、ストレスコーピング、セルフアドボカシーなどについて講演されました。

パネルディスカッションでは、3人のパネリスト（スクールカウンセラーの阿部 昇氏、生徒指導主任の岡本 大輝氏、養護教諭の川嶋 静香氏）が、それぞれの立場から、コロナ禍が及ぼした様々な影響や

問題点、さらに学びなどについて話されました。

思い返せば、新型コロナウイルスが日本国内で初めて確認されたのは2020年2月15日、安倍首相は、感染者の増加を踏まえ2月27日に全国すべての小中学校、高校、特別支援学校を3月2日から春休みまで臨時休校とするように要請しました。しかし新学期が始まる4月になっても感染は収束することなく、自治体による違いはありましたが、京都市立学校・幼稚園では臨時休校が5月31日まで継続されることになりました。そしてその後も色々な面で学校現場に影響が続いています。成長期の子どものメンタルヘルスに及ぼしている影響については、今後も経過を見ていく必要があると考えます。

## 令和4年度文部科学大臣賞表彰

会長 杉本英造

令和4年度全国学校保健・安全研究大会が11月10日、岩手県盛岡市で開催され、学校保健関係の文部科学大臣表彰をいただきました。

会員の皆様方の日頃のご支援あってこそものと感謝しております。コロナ禍で活動が制限されておりますが、今後も児童生徒の健康、学校安全に微力ではありますが、がんばって参りますのでよろしく願いいたします。



## 令和4年度 第53回全国学校保健学校医大会

### シンポジウム三席目の話題

顧問 奥村正治

シンポジウム全般でなく、三席目のみを書くように言われましたので……。

発題の出番の先生は、佐々木洋先生です。これだけでは殆どの会員の皆様お解りにはならないでしょう。花巻東高等学校の先生と言われたらお解りでしょうか？この文句を言ったら皆様お解りでしょう。米大リーガー・エンゼルスの大谷翔平さんの監督をなさっていた先生です。

シンポジウムのメインテーマは【こどもたちの「生きる力」を育む】です。又、先生のテーマは「夢を実現する」です。

私も人並みには勝てず、耳が少し聞こえにくくなりました。短時間に覚えるのが益々出来なくなりました。(元々記憶はダメですが……) 目もPCや携帯のお陰で、視力も弱ってまいりました。

その様な中で講演を聞き、まとめてみました。先生も少し東北なまりが有って、なお且つ早口で、……。聞き逃し、スライドが見えていない等などで、抜けているところも多々有ろうかと思いますがお許してください。

東北の野球チームは弱いチームと思われていました。が、チームの育成に、今までは型にはめる。「これが良いだろう！」と無理やりにもその形にはめておりました。何年たっても勝つ試合は出来ず、有る一点にたどり着きました。指導者が変化する事です。

お庭のスライドと、盆栽のスライドとお示しになり、解説が始まりました。お庭の分は、時間がたつと、木々は成長し、大きくなりました。見通しも悪く景色も悪くなり、少し手を抜くと、草ボウボウになってしまいます。

盆栽は、針金などを使い、無理やり真っすぐにしたり、無理やりに曲げてしまったりします。

この庭のように高校のチームの選手はなっていた事に気が付きました。

そこで指導者が変わらない事には、選手も変われ

ないと気づき、指導者が次の様に、変化していきま

した。  
①まず、坊主頭を止めました  
②型にはめない。矯正と自主性を大事に  
③投げない事ではなく、投げ過ぎない  
④グラウンドを遠い目に見ていく。例えば、ショートにノックをしても、ライトは今何をしているか？

⑤グラウンドを上の方から(空の方から)眺め、全体を見渡す。

等で、指導者が変わって行きました。すると選手も勝手に変わって行きました。どう変わったかと言いますと、将来の事を言う様になって行きました。すなわち夢を言う様になりました。この夢をどう完成させるか？が、グラウンドでの練習になり、東北勢が勝てるチームに変わって行ったのです。

・夢が持てるか、持てないかと言う事は、  
①人生の悲劇は、目標が達成出来ない事では無く、  
②目標を持たない人生で有ります。  
と  
・夢を実現する為に  
・考える力を養う為に、次の事を言い出したらダメである。言い訳になるので……。

- ①○○○○でも
- ②○○○○だって
- ③どうせ○○○○
- ④だけど○○○○

気持ちとしては、「失敗したらおめでとう」が、大事でしょう。

最後に

- ①運命を動かす人に出会うか？
- ②どんな本に出会うか？
- ③何に 時間を使うか？
- ④何に お金を使うか？

の4つで夢が実現するのです。と、言われ、講演を締めくくられました。

## 第53回全国学校保健・学校医大会を視聴して（第1分科会）

東山泉小中学校医 長 村 吉 朗

大会は紅葉を少し過ぎたにもかかわらず、山には冠雪も少なく快晴の続く岩手県盛岡市で開催された第53回全国学校保健・学校医大会での第1分科会の概要を報告いたします。大会は行動制限こそ無くなりにはしたものの、コロナ禍での開催の為ハイブリッドでの開催となりました。残念ながらリモートでの発表に運用や接続が上手くいかない発表が見られ、同様の開催での今後の課題となりました。

埼玉県医師会 澁谷美智子 我が国における貧困家庭の子ども達の食の問題を解決する子ども食堂・新しい子ども食堂の形「フードリボンプロジェクト」について 多くの食堂が個人の熱意による運営の為今後の継続性に課題があると思われました。

和歌山県医師会 村上浩一 成人式アンケート調査から見た小・中学生に対する喫煙防止出前授業(第2報) 授業を受けた記憶のある成人は多かったものの、その防止効果は限られたもので今後の継続によるかさ上げが期待されます。

徳島県医師会 田山正伸 徳島県医師会認定学校医制度の現状について 京都における指定学校医の取り組みに15年遅れでの試みが提示されました。4年間に8単位という研修基準を設けており、京都より厳しい運用を行っていくようですが、今後の研修機会の継続とその制度の維持に期待します。

神奈川県医師会 片岡愛 横浜市における医療的ケア児の一般登校支援の現状と課題 医療的ケア児の増加とともに京都市でも同様の問題が認められますが、支援学校でのそれと比べ医師会立の訪問看護を利用しているのですが費用の面で課題が大きいと思われました。

岩手県医師会 赤坂真奈美 地域格差や切れ目のない子育て支援のために：いわてチルドレンズヘルスケア連絡会議の取り組み

岩手県医師会 佐々木美香 重症便秘症の学童例：学校との連携の大切さ

岩手県医師会 和田泰格 学校医が知っておくべき疾患：FGF23関連低リン血症性くる病について以上の3演題は地元岩手の発表でした。

埼玉県医師会 平岩幹男 はったつしょうがいと古希YouTuber 発達障害に長らく携わってこられた平岩先生の取り組みの紹介でした。

岩手県医師会 小野寺千夏 学校検尿で初めて尿蛋白を指摘され、慢性腎臓病と診断された早産児既往の3例 未熟児における発育とともに起こる腎臓障害の報告でしたが、医療機関においてフォローされている症例にもかかわらず学校検尿で指摘されるまで検尿が行われていなかった事に問題があるのではないかと感じました。

大阪府医師会 星賀正明 大阪府立学校における学校心臓検診の取組み・これまでとこれから 長年にわたり心臓検診が行われてきた中で、関わる医療機関の変遷とともにシステムの再構築が必要となった事が報告されました。

東京都医師会 泉田直己 良質な学校心臓検診を目指した「検診機関用」、「学校医・養護教諭用」を対象としたマニュアルの作成 心臓検診に関わるそれぞれの仕事を明示したものを作成したことが報告されました。

以上簡単に内容を記載いたしました。抄録が必要な方は事務局まで御連絡下さい。

---

## 第53回全国学校保健・学校医大会 第2分科会 からだ・こころ（2）

北野中学校医 林 鐘 声

第2分科会の演題数は10題、多くはコロナ感染症に関連したものでした。

私の発表の中心は昨年11月号の校医ニュースの内容でした。それに加えて主催の日本医師会に対して、

学校医の意見を訊くことなく学校に診断キットが配布されたのは学校医として残念であったという意見を述べたところ、厚生労働省の一部署の専断であったと日本医師会の理事から回答がありました。今更

ですが、学校でのコロナ対応の不備をうやむやにせず返答したことは評価すべきと思っています。

学校のコロナ感染症対応の2題の報告は、詰まるどころ文部科学省の通知に従った活動の結果報告でしたから、京都市の経験と知見を再確認させるものでした。

コロナによる影響で児童生徒の肥満が一過性に増えていたようです。肥満対策の3報告のうち、秋田市小児科医会肥満委員会がまとめた秋田市の集計では、コロナによって受診率(肥満度20%以上で受診勧奨)が少し上昇して37.8%、これは私の知る限り驚くほど高い受診率でした。姫路市の肥満児検診を担当する医療機関からは、①飲み物は水かお茶、ジュースは週1回以下、②1日15分、週2回以上の運動、③ゲーム時間やテレビ等画面を見る時間を1日1時間減らす、などが肥満度改善に有効としつつ、長期的な行動変容を続けることが重要であることから、継続的に動機づけできるようなより簡単な指導の開発が必要と指摘していました。

メンタルヘルスに関する2題のうち、カウンセリングを含む思春期健診とアプリによる介入を試験的に行った科研費による取り組みは、アプリによる介入を目指す第一歩であり、もう一つは、平成24年から三重県医師会と教育委員会が協働してアンケート

調査を児童生徒に行ってきた中で、今回はコロナ流行後に不安抑うつや希死念慮が増えたこと、更にそのデータを活用して学校で環境調整することで改善が認められたとする報告でした。一過性に増えた肥満と同じく放置しても改善するものも含んでいたとは考えますが、早期介入によってこじらせるのを未然に防止した例もあるということなのでしょう。

学校での性教育において学習指導要綱が大きな制約となっていることはご存知のとおりです。その中で、産婦人科医による性教育の実践を通してクラミジア感染陽性率の低下が得られたとする岩手県からの報告や、東京都教育長から東京都産婦人科医会に対して学習指導要綱を超える内容を含む性教育指導の依頼がきたとする報告は、ともに地道に活動する中で勝ち取ってきた成果の発表に他ならず、小気味よいものでした。

最後に一言。今回は2年前と同じハイブリット形式の大会開催でした。ところが前回と異なり、演者は現地にも出席していたにもかかわらず会場とは別のブースからの発表を強いられました。会場参加者にとっても臨場感に乏しく質疑応答に水を差していたのは間違いなく、来年に開催する兵庫県もこれを踏襲するなら、Web参加で十分と思うばかりです。

---

## 第53回全国学校保健・学校医大会 (in岩手) に参加して

顧問 竹内 宏一

「子どもたちの『生きる力』を育む」というテーマで開催された。京都からは遠方ではあるが、地球上全世界を脅かしている感染症新型コロナの流行禍での、上記テーマと、大災害にみまわれた東北「岩手」での開催という両面で興味をもった。第2分科会(からだ・こころ(2))特別講演「幼児期・学童期における認知力と非認知力の意義」シンポジウム(今回のテーマ)を聴講したので、その感想を述べる。

第2分科会では、新型コロナウイルス感染症、小児肥満、性教育指導の現状と課題、コロナ感染によるメンタルヘルス関連等の演題10題だった。この中で1つ目は京都からの発表で学校でのコロナ診断キットの配布について、令和3年8月31日付での「手引き」「習

意事項」には学校は学校医と連携すると記載されているにも関わらず、学校医の意見が全く反映されていないと述べた事に、日本医師会の理事が挙手して、直ちに反応した事がとても印象的であった。学校での医療行為について政府文科省の言いなりとなり、教育委員会が実施した事について、日医がその内容を吟味しなかった事への反省のように思えた。元来、学校でのキット実施については反対していたにも拘らず、実施されたが、実施は、結局継続されないで、終わっている。当然のことと思う。分科会での2つ目は、三重県医師会、教育委員からの発表で、メンタルヘルスに関し、「希死念慮率の増加、特に中学女子生徒の情緒不安の悪化」という演題にも興味を

引かれた。この事は、後に述べるシンポジウムの「幼児期・学童期における認知力と非認知力の意義」とおおいに関連するからである。「非認知力」とは粘り強く取り組み、挑戦し、協力する力であり、生涯に渡る学び成長を続けるために幼児期より育まれることに欠けている為と思われ、現代が物質的にあまりにも恵まれ過ぎでの不幸であり、若年層の中高生や、特に20代30代の女子に自殺の多さに結び付くものと考えられる。

次に、特別講演、シンポジウムについての感想を述べる。特別講演の「幼児期・学童期における認知力の意義」についての内容は初めは極めて、学問的で難解に思えたが、シンポジウムの「子供がストレスを乗り切るレジリエンスを育む」を聴いて次第にその理解度が深まり、僕なりにも分かりやすかった。

以上より、いかに子供に「生きる力」育む事の難

しさを学習させられた事と、幼児、学童、若い世代、成人に至るその全ての人間の「トレランス」の中が狭く、小さいかを思い知らされた。今回の大会は大きな災害を経験され乗り越えてこられた、東北「岩手」の皆様方の岩手県教育振興計画の策定「学びと絆で夢と未来を拓き、社会を創造する人づくり」を基本目標に「学校教育」と「社会教育と家庭教育」を柱とする2つを目指す姿の実現に向け、各種の教育施策を展開されていることに敬意を表すものである。

最後に、家庭環境、社会環境、貧困、愛情、宗教、政治を含め「非認知力」を教える時、自殺の増加、安倍元首相銃撃事件等は少しでも減らせるのではないかと思われる。これはあまりにも僕だけの飛躍した考えすぎなのだろうか。とても僕には有意義で最近に学習できた大会であった事に感謝！！

---

## 第53回全国学校保健・学校医大会 第3分科会 からだ・こころ（3）報告

太秦小学校医 井本 雅美

第3分科会では、8つの演題が発表されました。以下に題名と発表者名を列挙します。

1. 長期療養後の小児がん患者と小児無菌病室入院患者における非接触交流スポーツ体験  
岩手県医師会 吉田 太郎
2. 鎖肛術後の機能障害改善例の報告  
熊本県医師会 高野 正博
3. 岩手県での運動器検診の取組み  
岩手県医師会 菅 義行
4. 運動器検診受診後全国アンケート調査結果の検討  
東京都医師会 森山 正敏
5. 学童の頸椎後弯変形の早期発見について  
広島県医師会 泉 恭博
6. モアレ法による側弯症検診の現況と問題点  
—機器を用いた側弯症検診の今後の展望—  
岩手県医師会 山崎 健
7. 運動器検診とロコモ・フレイル予防  
埼玉県医師会 林 承弘
8. 運動器検診と「子どもロコモ」  
長野県医師会 二階堂 元重

2016年から学校定期健診に運動器検診の項目が加わったことにより、運動器疾患に対する意識が高まり、また、以前から項目にあった脊柱側弯症の発見率も上るなどメリットはあるものの、殆どの学校では整形外科医ではなく内科系医師が運動器検診も行っているのが実情であり、その負担が増大していることは間違いありません。さらに、正確な脊柱の診断には上半身脱衣が必要と考えられ、それに対する一部保護者やマスコミの攻撃などにさらされる学校医の精神的な負担についても考えざるをえません。保護者やマスコミの誤った情報に対しては毅然として対応しつつも、今後の運動器検診については、検診機器の導入、保護者や教員などの事前チェックの充実、さらに運動器検診における整形外科医の積極的な介入の必要性などを含め、健診方法については考えなければならぬ課題が山積していると感じる分科会でした。

# 第53回全国学校保健・学校医大会 in 岩手 第4分科会「耳鼻咽喉科」報告

顧問 鈴木 由一  
京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 平 杉 嘉平太

令和4年11月12日(土)に秋も深まり紅葉も少し見ごろを過ぎた岩手県盛岡市にてハイブリッド開催されました。

京都市学校医会から鈴木顧問、平杉京都府耳鼻咽喉科専門医会理事が第4分科会、耳鼻咽喉科に参加しました。

また、京都府からは京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室 小宮耳鼻咽喉科医院の兵庫美砂子先生が「学齢期難聴児の耳鼻咽喉科疾患と聴覚補償について～京都市立小中学校聴覚特別支援学級聴覚検診結果より～」との演題で発表されました。

演題は全部で9題でした。プログラムをご参照下さい。

## 第4分科会 耳鼻咽喉科

〔座長〕岩手県耳鼻咽喉科医会 会長 河嶋 寛  
岩手県医師会学校医部会 副部会長 齋藤 達雄

発表順	演題名	研究発表者名
1	学齢期難聴児の耳鼻咽喉科疾患と聴覚補償について ～京都市立小中学校聴覚特別支援学級聴覚検診結果より～	京都府医師会 兵庫 美砂子
2	福岡県久留米市における養護教諭を対象とした耳鼻咽喉科健診に関するアンケート結果について	福岡県医師会 矢武 克之
3	無電源型環境音調整耳栓を使用した際の実耳音響特性の検討 ～聴覚過敏児に対する適応の可能性～	大阪府医師会 西村 将人
4	学校健診(小1)で発見された軽中等度難聴児1例の経過と秋田県内の難聴児教育支援体制の紹介	秋田県医師会 中澤 操
5	難聴児の学校教育上での支援に対する啓発の必要性の検討	岡山県医師会 片岡 祐子
6	聴覚障害を対象としない特別支援学校に在籍する難聴症例	神奈川県医師会 寺崎 雅子
7	聴覚支援学校における耳鼻科健康相談の変化	徳島県医師会 島田 亜紀
8	小児におけるダニ舌下免疫療法 一副反応発現と治療効果について	岩手県医師会 千葉 隆史
9	当院における小児鼻腔異物症例の検討	岩手県医師会 堀 亨

# 第53回全国学校保健・学校医大会 第5分科会「眼科」報告

京都府眼科学校医会理事 嶋元 孝純

日時 令和4年11月12日 土曜日  
場所 ホテルメトロポリタン盛岡&オンライン  
今年のメインテーマは「子どもたちの『生きる力』を育む」であった。「生きる力」とはコロナ禍をはじめ変化の激しい社会を生きるために必要な力として、学校教育が長年その育成を目指してきたものである。

第5分科会「眼科」の演題名と研究発表者名は以下のとおりであった。

- 1、コロナ禍に於ける細菌性前眼部疾患との闘い  
神奈川県医師会 坂本 則敏
- 2、就学時健診及び幼稚園・保育所等での視力検査等に関する全国調査について  
京都府医師会 柏井 真理子
- 3、江戸川区におけるコロナ禍の小中学生の裸眼視力の推移  
東京都医師会 田中 寧

- 4、ICT教育のもとでの目の健康啓発コンテンツについて  
大阪府医師会 丸山 耕一
- 5、スマホ時代の眼鏡処方における調節麻痺剤の重要性  
岩手県医師会 鈴木 武敏
- 6、IoMTを用いたコンタクトレンズ診療から  
ー15歳以下のユーザーについてー  
岩手県医師会 佐渡 一成
- 7、視力値での評価を補完する数理的センス  
神奈川県医師会 鈴木 高遠

京都府医師会から柏井真理子先生が、3歳児健診から小学校入学までの視力検査実施状況等に関する日本眼科医会の全国調査について発表された。幼稚園、保育所、認定こども園では視力検査を「実施している」が施設別に30～60%、「実施していない」が40～70%であった。全国での地域別では「実施している」が16%～56%と地域差があった。「実施して

いない」の理由は「必要がない」が20～30%、「やり方がわからない」が20～30%であった。内科健診は「実施している」が98～99%、眼科健診は「実施している」が10～35%であった。一方就学時健康診断では視力検査を「実施している」が96%であったものの、実施場所は「当日会場で実施している」が85%であり、「自宅で保護者が実施」「園での視力検査を参考にする」など改善すべき地域も認めた。実施方法は、就学時健診にも記載されている「字ひとつ視力表を使用して実施している」が55%であった。内科健診は「実施している」が99%、眼科健診は「実

施している」が42%であった。

50人に1人と言われる弱視や低年齢化している近視の早期発見のため、今後も粘り強く幼児期の視力検査の重要性を啓発していくことが必要である。また就学時健診では適切な視力検査法すなわち「字ひとつ視力表を使用」「健診会場で実施」を求めていくことが必要である、と結ばれた。

柏井先生が示された啓発を通じ、就学までに視力を健やかに成長させ、「生きる力」のひとつとして、視力1.0を獲得して小学校入学を迎えることが切に望まれる。

## 京都市学校医会左京支部会（令和2年度、3年度、4年度合同）

左京支部長 東道伸二郎

色づききらぬ紅葉葉が散り始めた11月26日（土）に高野の「ひばなや」さんと、左京支部会を行いました。令和2年から延期した支部会であるため、15名が参加して華やいだ雰囲気でのまりました。

「ひばなや」さんはテーブル毎に天井に強力な換気扇があり、鍋に火をつけてしばらくして換気扇をONにするとガスをつけても、あっという間にCO2濃度が1オーダー以下に下がり、空気の流れて足元が急に寒くなるほど換気の良い状態で、感染予防に最適と考えました。おかげさまで、左京支部会の1週間後の今も、出席された先生方にCOVID-2に罹られた先生はおられません。

会の最初に学校医会会長 杉本英造先生の講演研修があり、上半身脱衣での運動器検診の重要性について説明されました。また、最近あった第53回全国学校保健・学校医大会で報告のあった学童の頸椎後弯変形の早期発見について ([https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspineres/11/11/11\\_2020-1102/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspineres/11/11/11_2020-1102/_pdf/-char/ja)) 教えていただき、運動器検診における上半身脱衣での健診が重要であることは間違いないところです。しかしながら、京都新聞の記事「恥ずかしい思い、娘にさせたくない」学校健診で上半身裸は必要？紙面に反響「スムーズに診察できる」2020年12月19日 <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/416330>のような指摘もあることも事実です。運動器検診導入時の会長であった林鐘声先生は以前報道関係の取材を受けられた際に、文科省が監修したマニュアル通りに健診を行っているのを、改

正点があれば文科省にお願いされることが必要であると述べられたそうです。

医療を提供する側の視点と医療を受ける側の視点が異なることは当然ですが、運動器検診導入後の学校健診においては、健診提供側の視点のみが優先されて、健診を受ける児童生徒の思いが無視されていることで混乱が生じている可能性があると思います。

上半身脱衣での健診は思春期前後の女子ではなく時に思春期の兆候がない女子の方が嫌がることもあります。手術痕が見られる生徒、軽度の臍突出症の生徒等は男女を問わず上半身脱衣での健診を嫌がることもあります。単純に女子は女医の健診が、男子では配慮せず健診をと言った単純なものではないようです。子供同士の気心が知れてくるとこのようなことは気にしなくなることもあるようです。養護の先生の細やかな配慮で内科健診を行っておりますが、新聞にあるようなトラブルもなく出来ているという印象が出席された先生方の現状のようでした。

将来、運動器検診の問診票に

- (1) 通常の上半身脱衣での健診を希望する。
- (2) 健診の精度は低いを着衣をつけての健診を希望する。
- (3) 運動器検診は問診表だけで済ますことを希望する。
- (4) 健診を希望しない。

等の項目が付け加えられることのないように検討していただきたいものです。

## 第 7 回 常任理事会

令和 4 年 12 月 3 日 於 事務局

**出席者** 杉本会長、井本・山内副会長、安野専務理事、川勝・中嶋・西村・守上各常任理事、嶋元眼科学校医会理事、平杉耳鼻咽喉科専門医会理事、長村・東道監事

### 会長挨拶

#### <報告事項>

1. 色覚相談助成金について協議 11 / 5  
杉本・井本・山内・安野・守上・林・嶋元先生・京都府眼科医会高橋会長
2. 色覚相談 11 / 8、11 / 29 各 1 名
3. 精神衛生研究会 11 / 10
4. 令和 4 年度全国学校保健・安全研究大会 11 / 10 ~ 11 盛岡市 杉本・奥村顧問
5. 令和 4 年度第 53 回全国学校保健・学校医大会 11 / 12 盛岡市  
杉本・井本・林・長村・奥村顧問・竹内顧問・鈴木顧問、WEB：嶋元先生・平杉先生  
(令和 5 年度大会は 10 月 26 (木) ~ 28 日 (土) 神戸市で開催)
6. 心臓病相談事業について協議 11 / 16  
於：京都府医師会 林
7. 京都市学校保健研究発表会及び表彰式 11 / 19 於：京都市総合教育センター  
川勝・小西先生 (受賞者)・井本・安野・長村
8. 左京支部会 11 / 26 杉本・川勝・林・東道
9. 御所東小の加藤 竜一先生、洛水中学校の神谷康隆先生がご辞任について (洛水中学校の後任は和田 幹生先生に決定)
10. その他

#### <協議事項>

1. 健診時の上半身脱衣問題について  
(12 / 2 市教委と協議 杉本・井本)
2. 複数配置解消と定時制高校再編について
3. 令和 5 年 4 月 全理事会日程について  
4 月 6 日 (木) 14 : 00 ~  
事務所と Zoom のハイブリッドで開催
4. パルスオキシメーターについて
5. 運動器検診について：頸椎後弯症の早期発見
6. その他

#### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 12 / 6、12 / 20 待機者なし
2. ツベルクリン反応検査 (いずれも 1 4 時 ~)  
接種 12 / 6、判定 12 / 8  
於：元有濟小学校 大久保・安野  
接種 12 / 12、判定 12 / 14  
於：京都市総合教育センター 林・杉本
3. 精神衛生研究会 12 / 8 14 : 00 ~
4. 第 8 回常任理事会兼新年会 1 / 14 17 : 00 ~
5. その他

学校医会事務局の年末年始休業期間を下記の通りとさせていただきます。

1 2 月 2 8 日 (水) ~ 1 月 4 日 (水)